

# 1. 生活の再建・復興とは？

阪神・淡路大震災被災者生活復興調査

東日本大震災名取市生活再建現況パネル調査

Tatsuki, S. (2021). Longitudinal Impacts of Pre-existing Inequalities and Social Environmental Changes on Life Recovery: Results of the 1995 Kobe Earthquake and the 2011 Great East Japan Earthquake Recovery Studies, a paper presented at Plenary: Post-Disaster Longitudinal Cohort Studies Across Cultural Contexts, Researchers Meeting, 46th Natural Hazards Workshop, July 14, 2021.



## 1999年神戸市生活再建草の根検証検討会

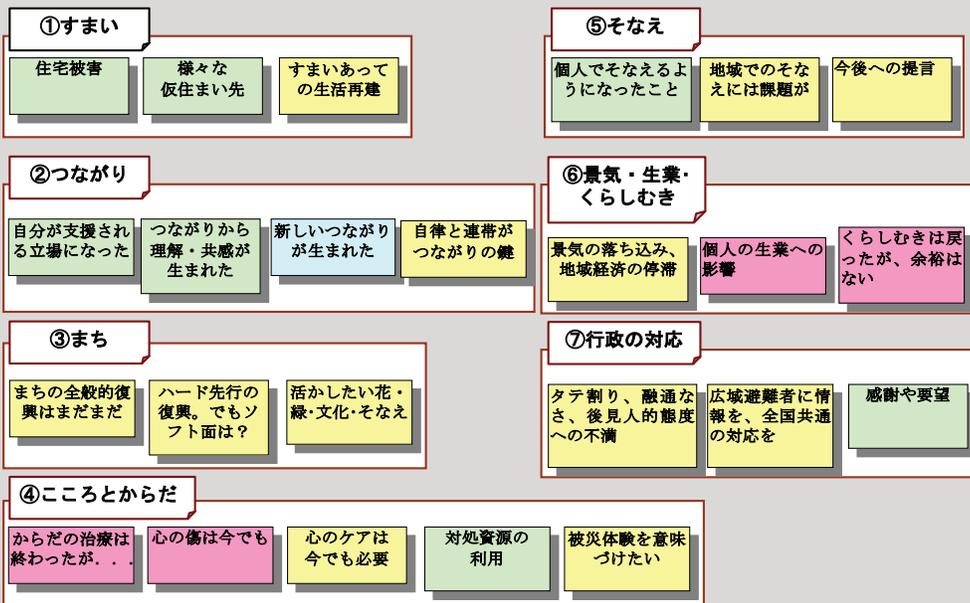
### (神戸市震災5年検証)

立木茂雄・林春男「TQM法による市民の生活再建の総括検証－草の根検証と生活再建の鳥瞰図づくり」『都市政策』104、2001、123-141.

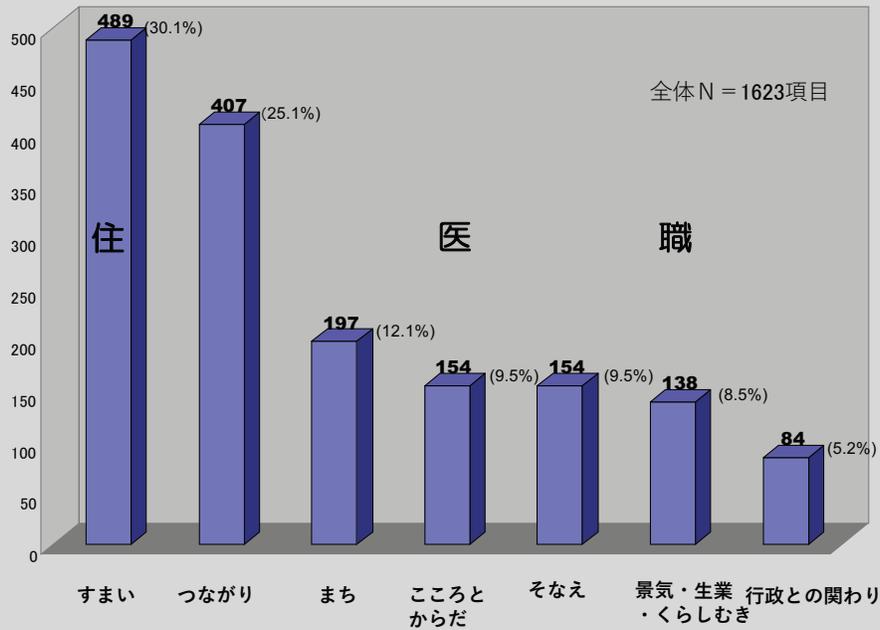


## 市民の生活再建実感

(神戸市草の根検証ワークショップ結果、99年7月～9月)

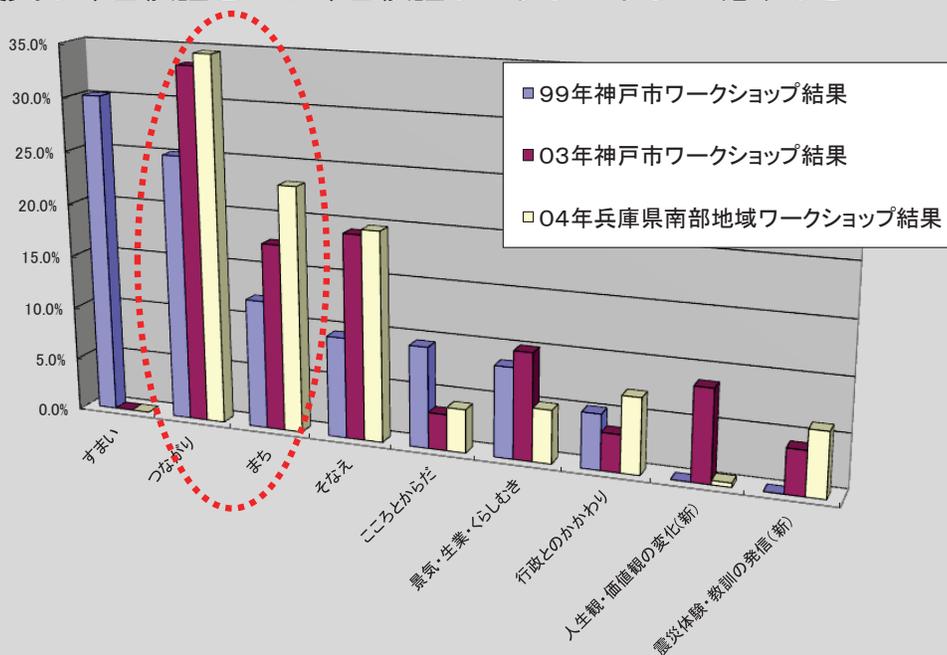


## 生活再建構造の分野別カード枚数



5

## 生活再建を進める上で重要だと指摘された意見群の変化： 震災5年目検証と10年目検証ワークショップの結果から



6

## 2.被災者のレジリエンス

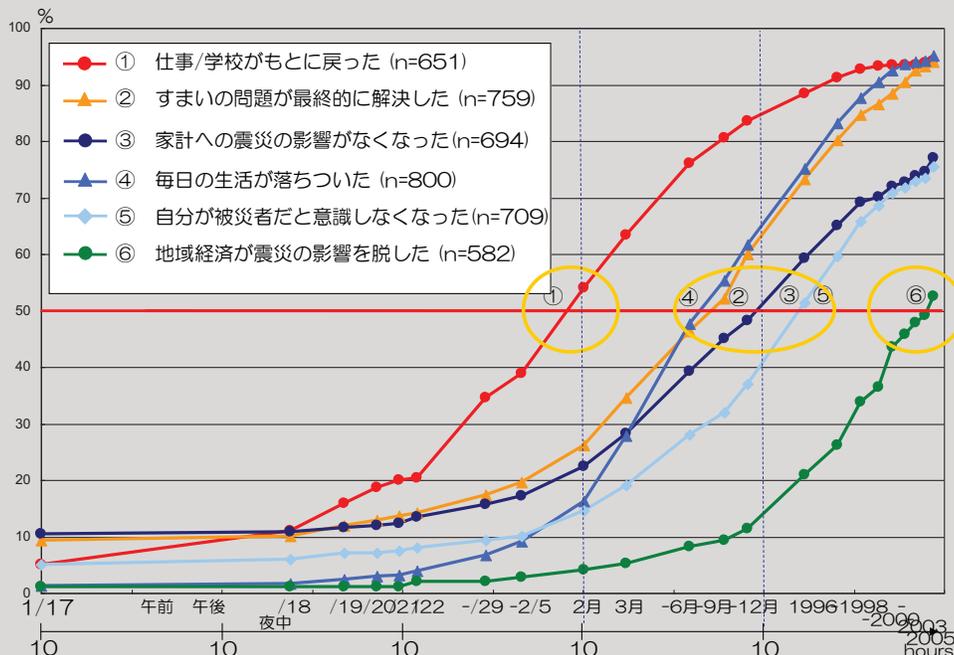
### 社会調査から見る阪神・淡路大震災被災者の生活再建過程

2001年調査：平成13年1月15日～2月5日(有効回答1,203名)

2003年調査：平成15年1月15日～2月3日(有効回答1,203名)

2005年調査：平成16年1月15日～2月3日(有効回答1,028名)

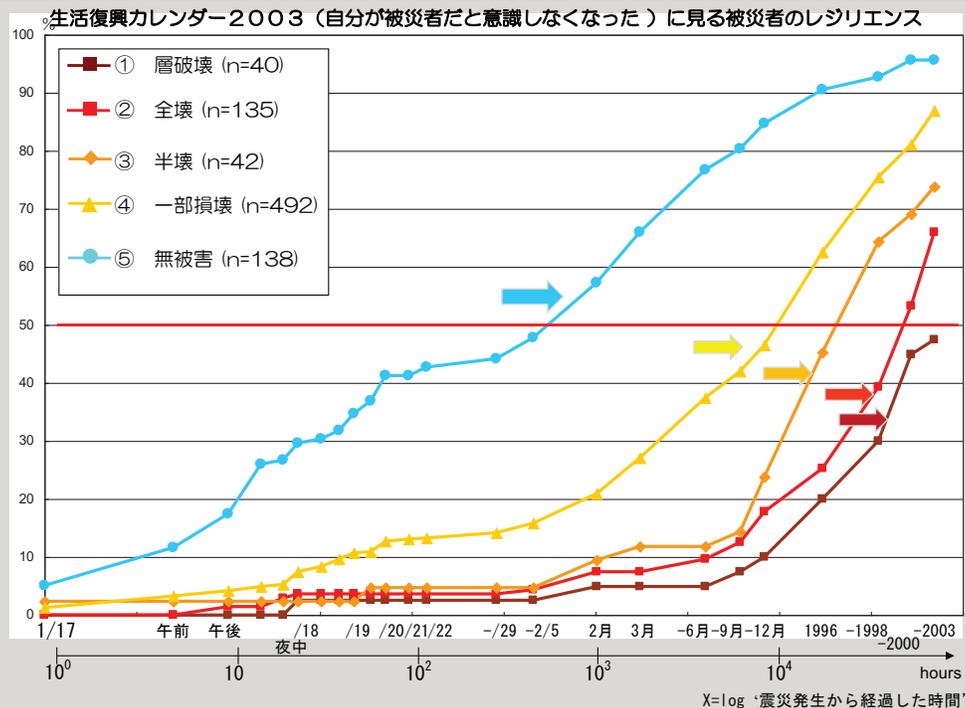
### 2005年兵庫県復興調査：復興カレンダー結果



# 復興カレンダー (自分が被災者だと 意識しなくなった) に見る被災者のレジリエンス

木村他(2004)「被災者の主観的時間評価からみた生活再建過程：復興カレンダーの構築」地域安全学会論文集, 6, pp. 241-250.

9



木村他(2004)「被災者の主観的時間評価からみた生活再建過程：復興カレンダーの構築」地域安全学会論文集, 6, pp. 241-250.

10

## 3.生活再建7要素が生活復興感に及ぼす影響のパネルデータ分析

Tatsuki, S. & Kawami, F. (2023) Longitudinal Impacts of Pre-existing Inequalities and Social Environmental Changes on Life Recovery: Results of the 1995 Kobe Earthquake and the 2011 Great East Japan Earthquake Recovery Studies, *International Journal of Mass Emergencies and Disasters*, 41(1), 94-120.

### 3-1. 生活の連続性

被災後の生活再建が苦しいのはどのような人たちか？

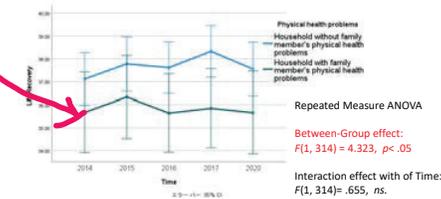
東日本大震災名取市生活再建現況パネル調査からのエビデンス

立木茂雄(2022).『災害と復興の社会学（増補版）』, 萌書房.

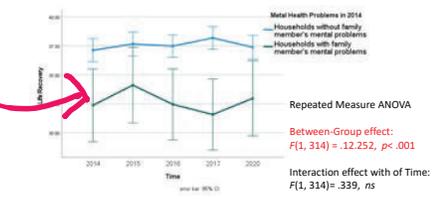
立木 茂雄,・川見 文紀(2022). 社会的弱者と災害-誰一人取り残さないための原則とは? 総合リハビリテーション 50 (1), 83-89, 2

# 心身の健康問題・失業・単身高齢世帯群とそれ以外群の生活復興感得点の軌跡の比較

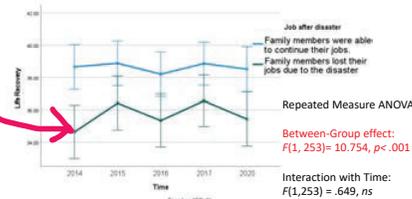
復興感軌跡パターンの比較：  
身体的健康問題を抱える世帯員のいる世帯とそれ以外の世帯



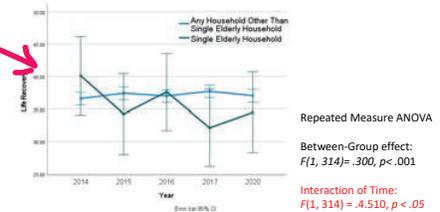
復興感軌跡パターンの比較：  
精神的健康問題を抱える世帯員のいる世帯とそれ以外の世帯



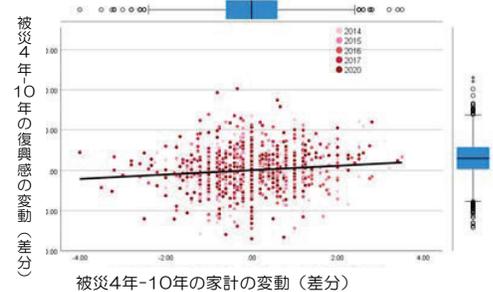
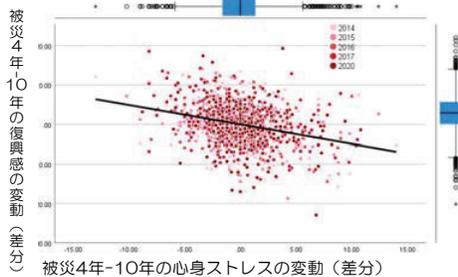
復興感軌跡パターンの比較：  
震災により失業した世帯員のいる世帯とそれ以外の世帯



復興感軌跡パターンの比較：  
単身高齢世帯とそれ以外の世帯



立木 茂雄, 川見 文紀(2022). 社会的弱者と災害-誰一人取り残さないための原則とは? 総合リハビリテーション 50 (1), 83-89, 2



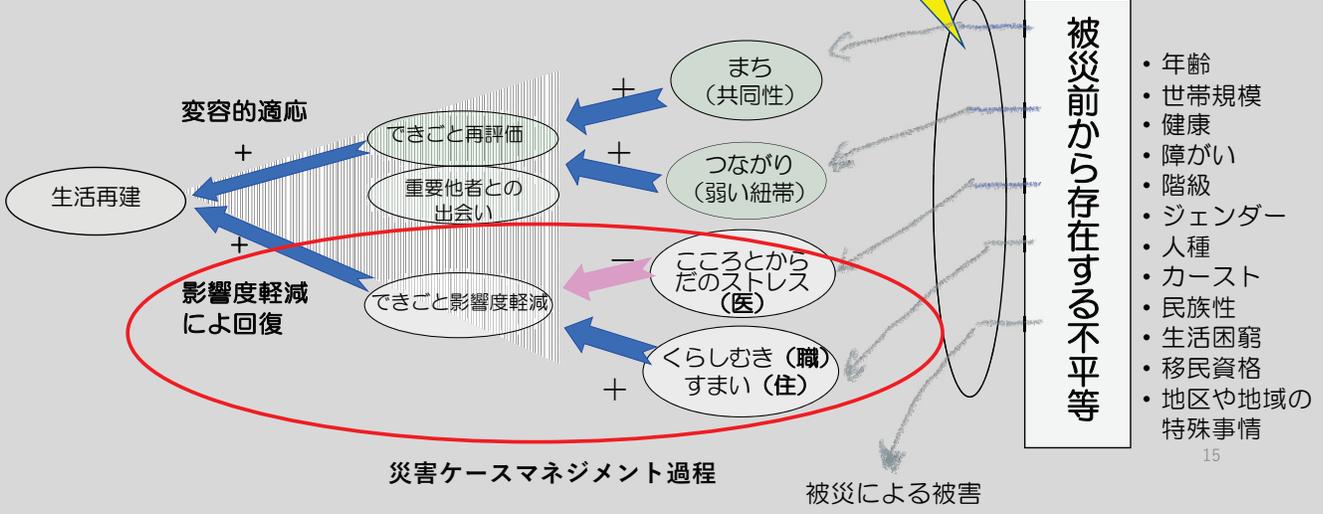
## 3-2. レジリエンス(再構築力)とは?

阪神・淡路大震災被災者生活復興調査

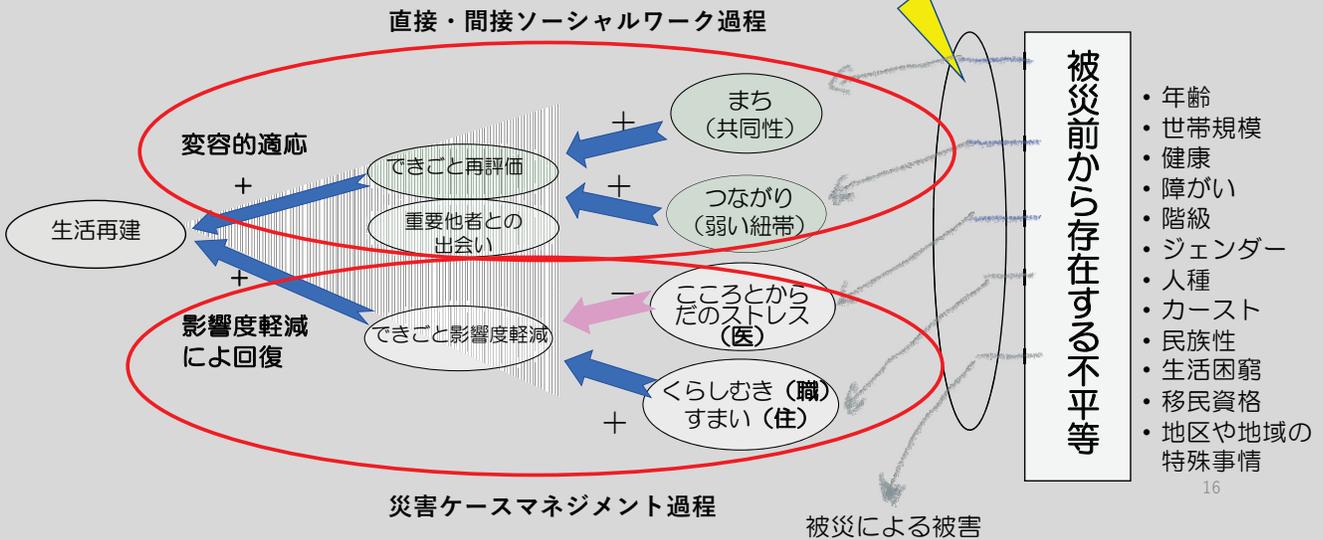
東日本大震災名取市生活再建現況パネル調査

Tatsuki, S. (2021). Longitudinal Impacts of Pre-existing Inequalities and Social Environmental Changes on Life Recovery: Results of the 1995 Kobe Earthquake and the 2011 Great East Japan Earthquake Recovery Studies, a paper presented at Plenary: Post-Disaster Longitudinal Cohort Studies Across Cultural Contexts, Researchers Meeting, 46th Natural Hazards Workshop, July 14, 2021.

## 阪神・淡路大震災および東日本大震災後の 大規模社会調査に基づく生活復興過程のモデル化



## 東日本大震災後の大規模社会調査に基づく 生活復興過程のモデル化



## 4. ソーシャル・キャピタルと レジリエンス

### 4.1 神戸市自治会・ マンション管理組合 社会調査

2006年度：ソーシャルキャピタル協働政策研究会（フィールド調査）

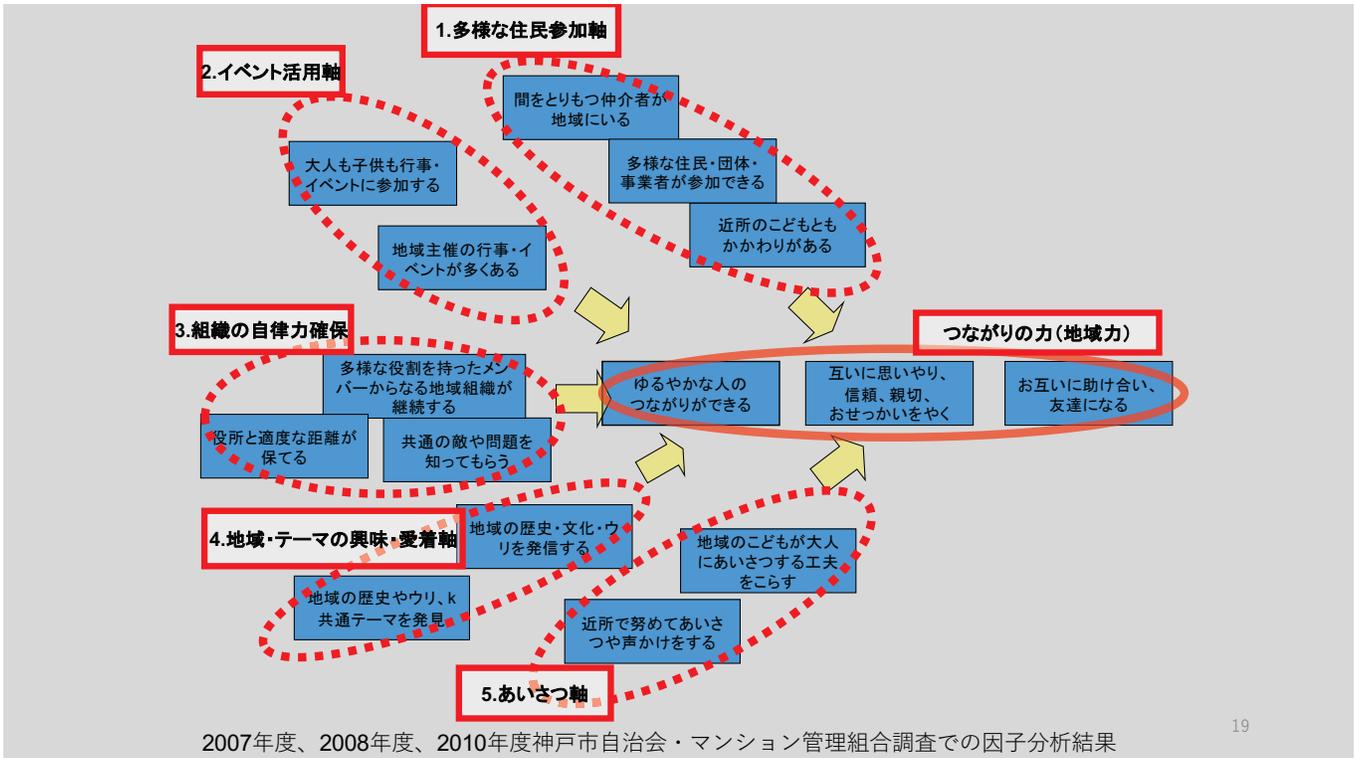
2007年度：自治会・管理組合基礎調査

2008年度：自治会・管理組合基礎調査（再調査）

2009年度：神戸市1万人アンケート（役員・住民意識比較）

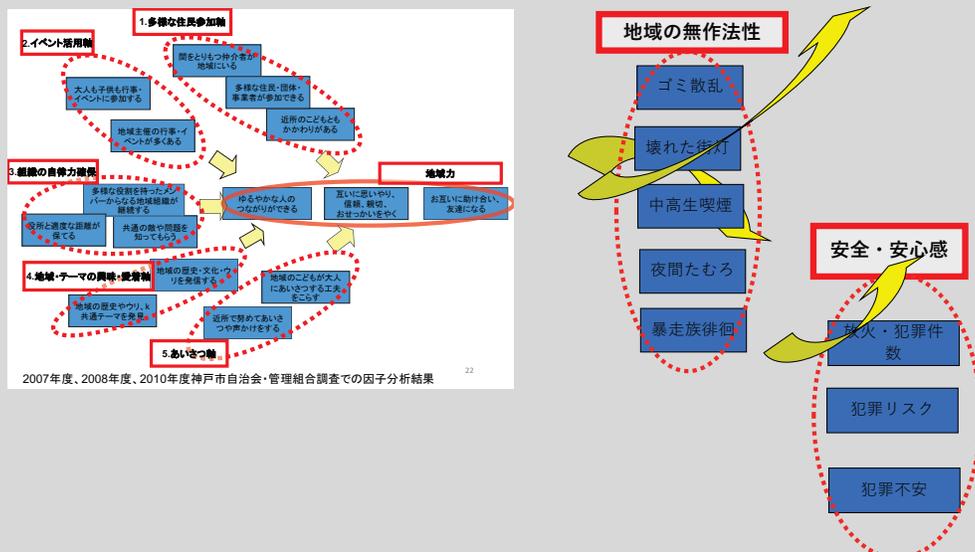
2010年度：自治会・管理組合基礎調査（再々調査）

2013年度：神戸市内地域組織基礎調査

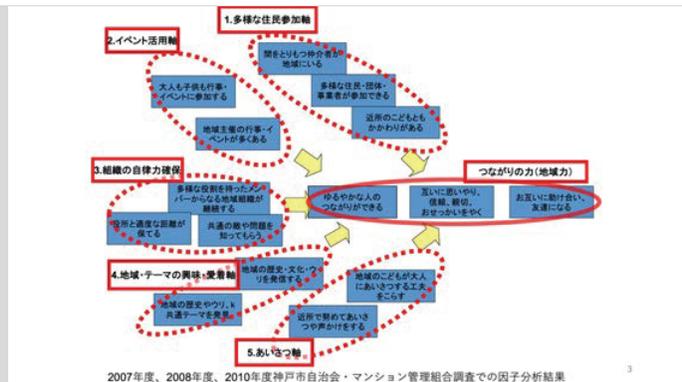
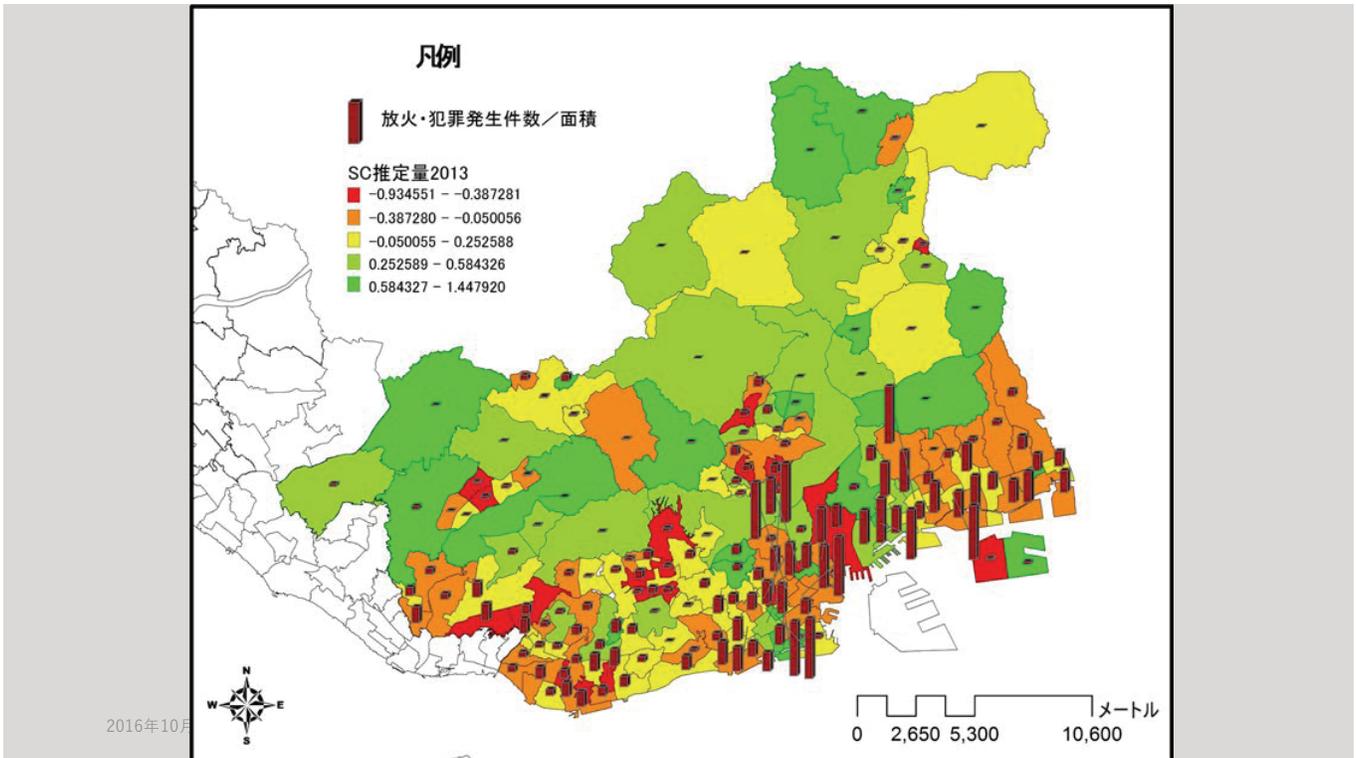


19

## 神戸市調査の結果：地域力は秩序びん乱を抑止し、犯罪に対する安全性や安心感を高めていた



20

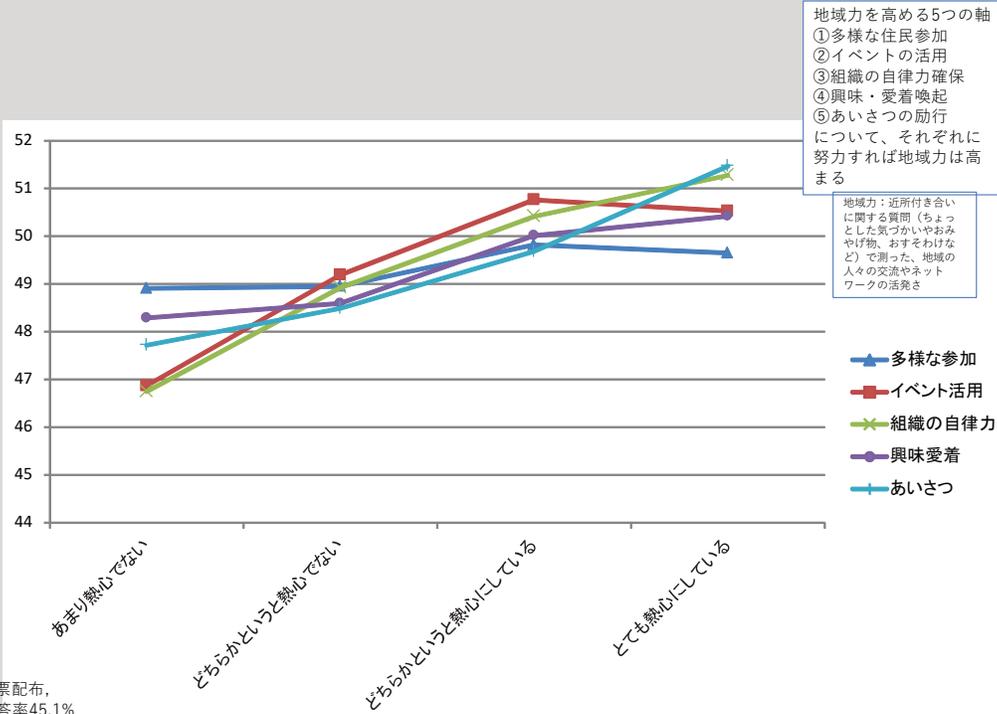


## 4.2 京都市自治会・町内会調査\*

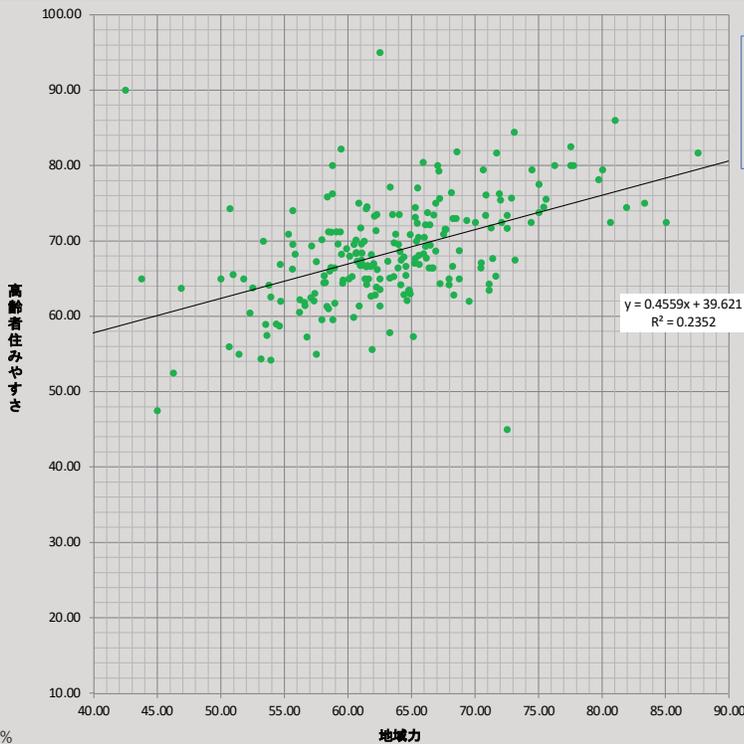
2014年度調査 6,524票配布, 3,025名から回答, 回答率46.4%  
 2016年度調査 6,580票配布, 2,969名から回答, 回答率45.1%  
 2018年度調査 6,477票配布, 3,345名から回答, 回答率51.6%

\*京都市地域コミュニティ活性化推進条例（2012年4月施行）に基づき設置された京都市地域コミュニティ活性化推進審議会が、エビデンスに基づく政策立案の審議に資するため継続的に実施。

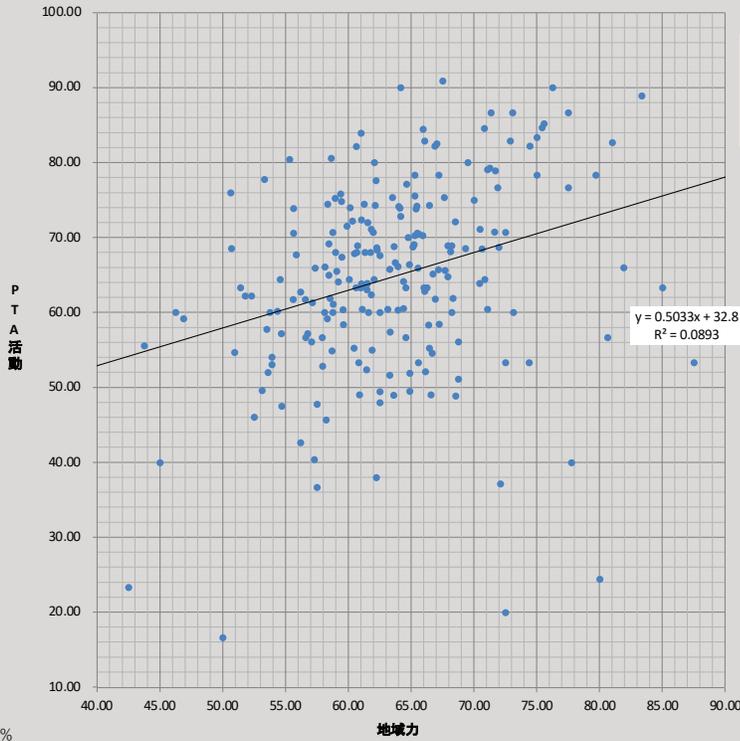
地域力(ソーシャル・キャピタル)得点



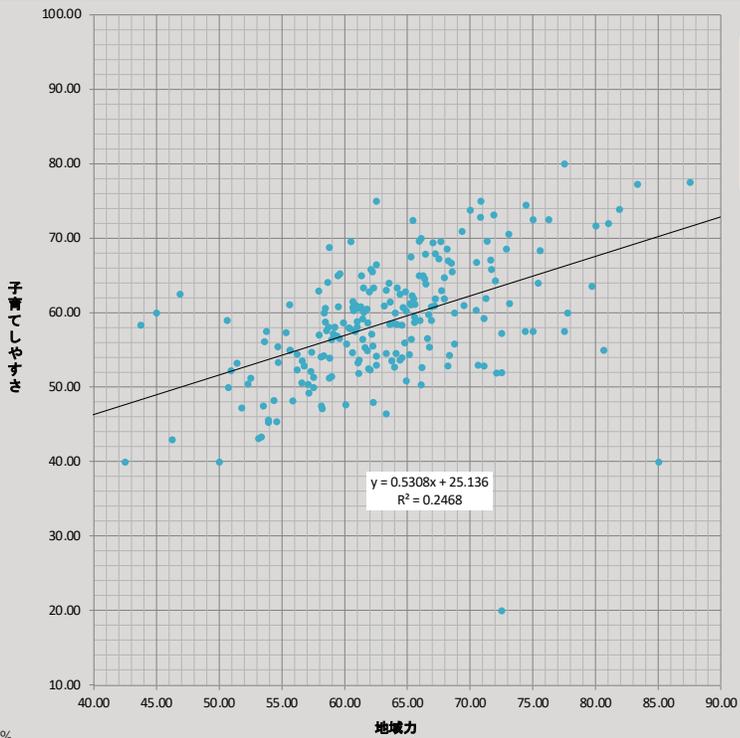
2016年度調査 6,580票配布,  
2,969名から回答, 回答率45.1%



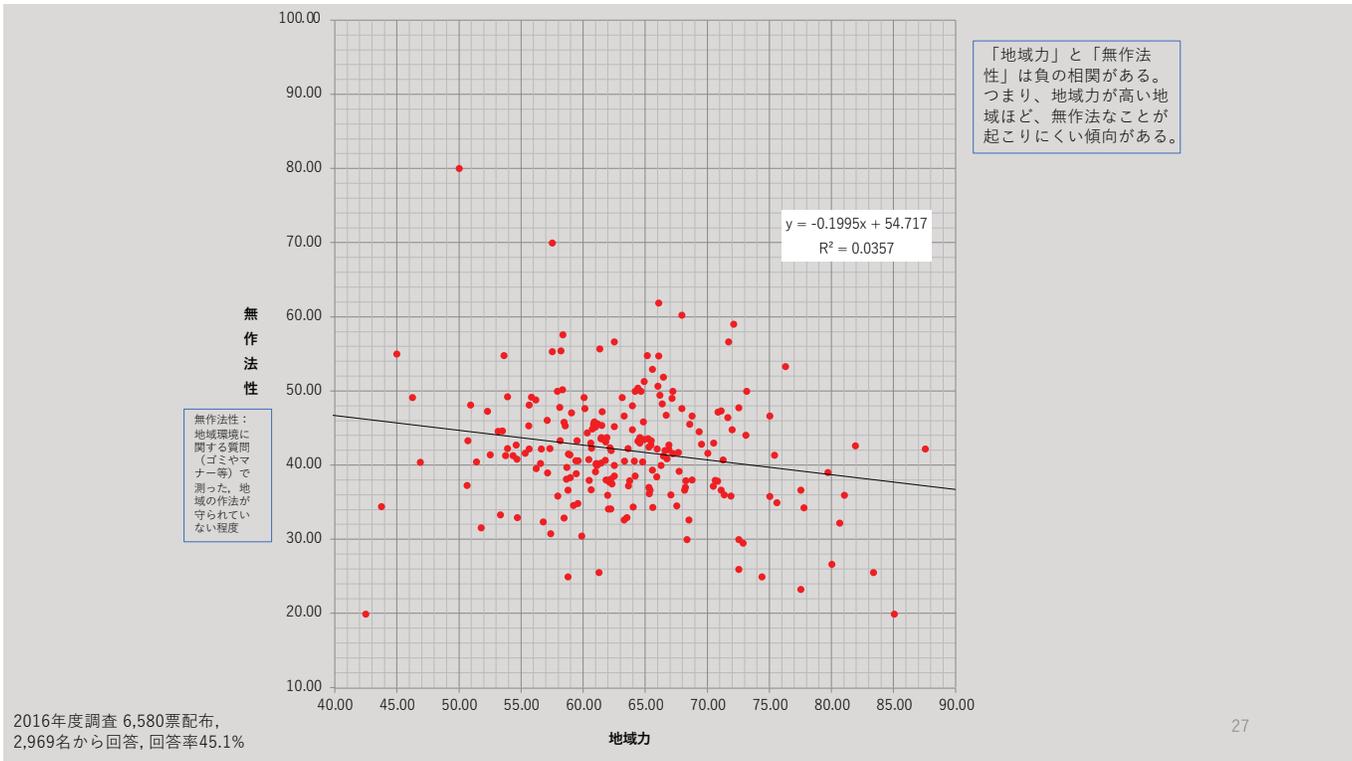
2016年度調査 6,580票配布,  
2,969名から回答, 回答率45.1%



2016年度調査 6,580票配布,  
2,969名から回答, 回答率45.1%

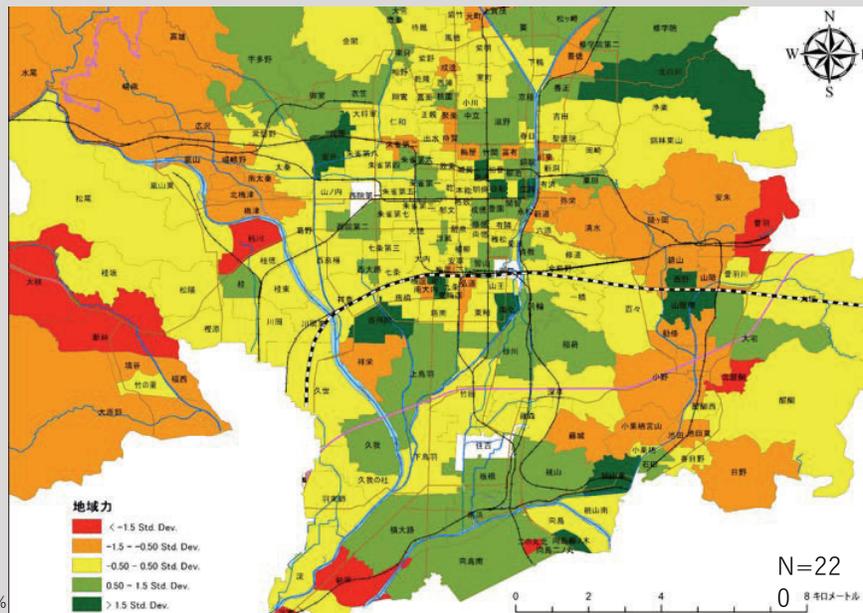


2016年度調査 6,580票配布,  
2,969名から回答, 回答率45.1%

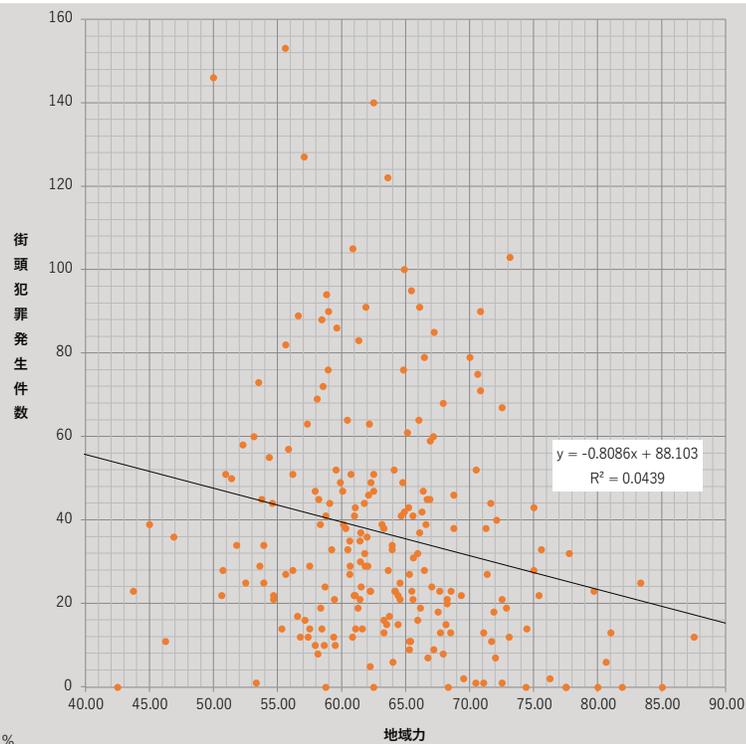
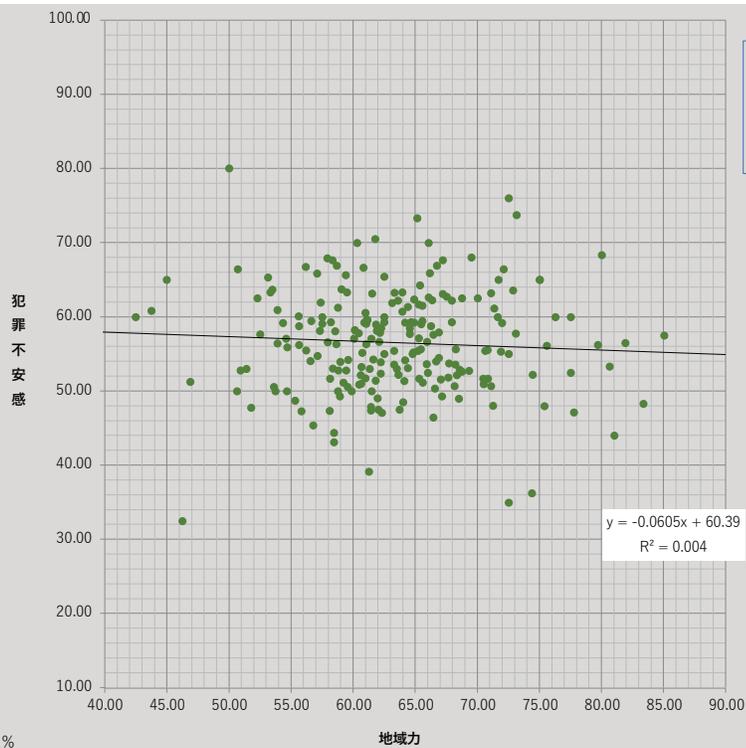


## 京都市内の学区別の地域力指標

(2016年度調査)

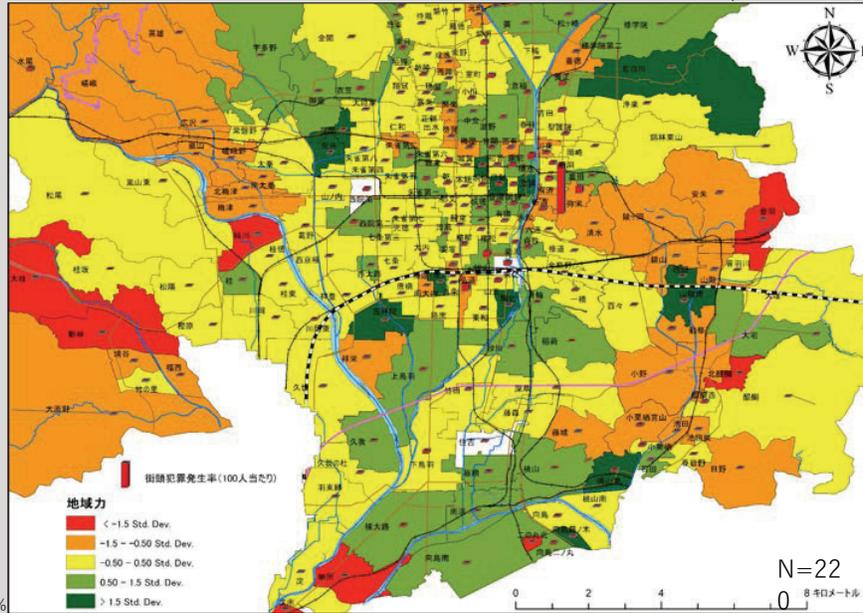


2016年度調査 6,580票配布,  
2,969名から回答, 回答率45.1%



# 京都市内の学区別の地域力指標と街頭犯罪認知件数

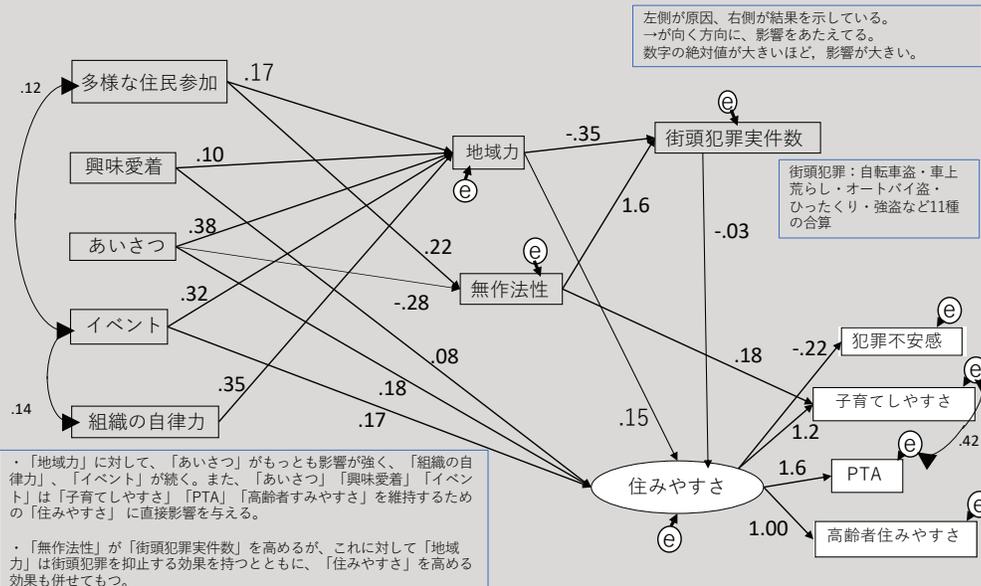
(2016年度調査)



2016年度調査 6,580票配布,  
2,969名から回答, 回答率45.1%

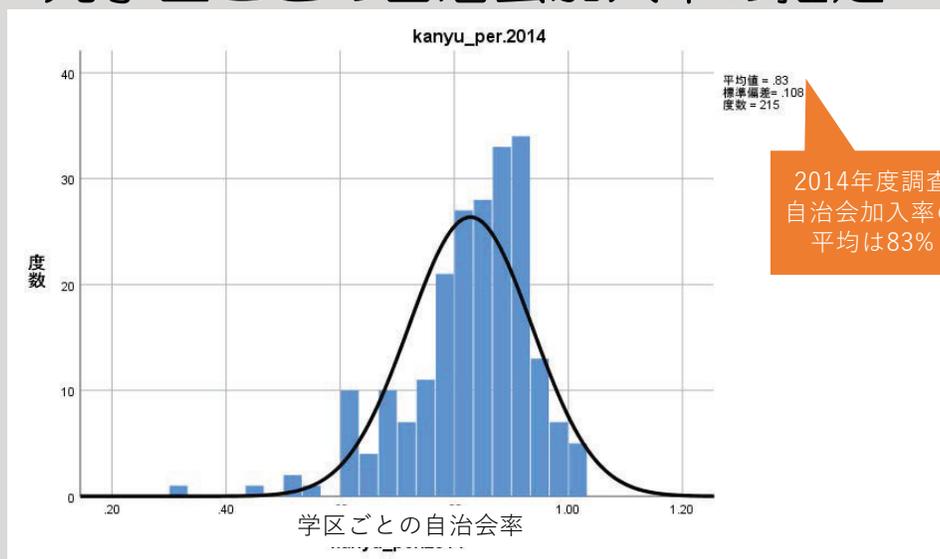
## 京都市2016年度データの因果モデル分析

df=45  $\chi^2=123.636$  p=.000 CFI=.787 RMSEA=.091 AIC=213.636

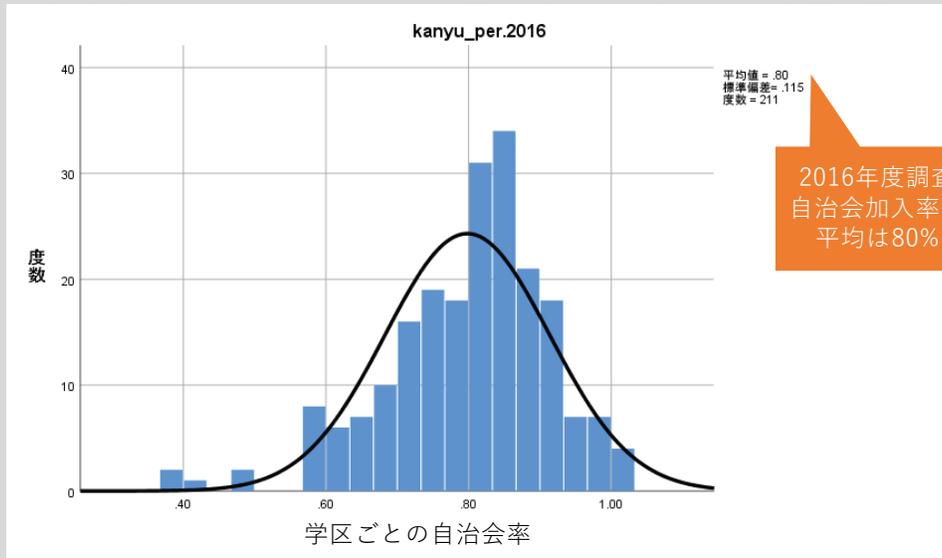


# 2014・2016・2018年度 パネル調査

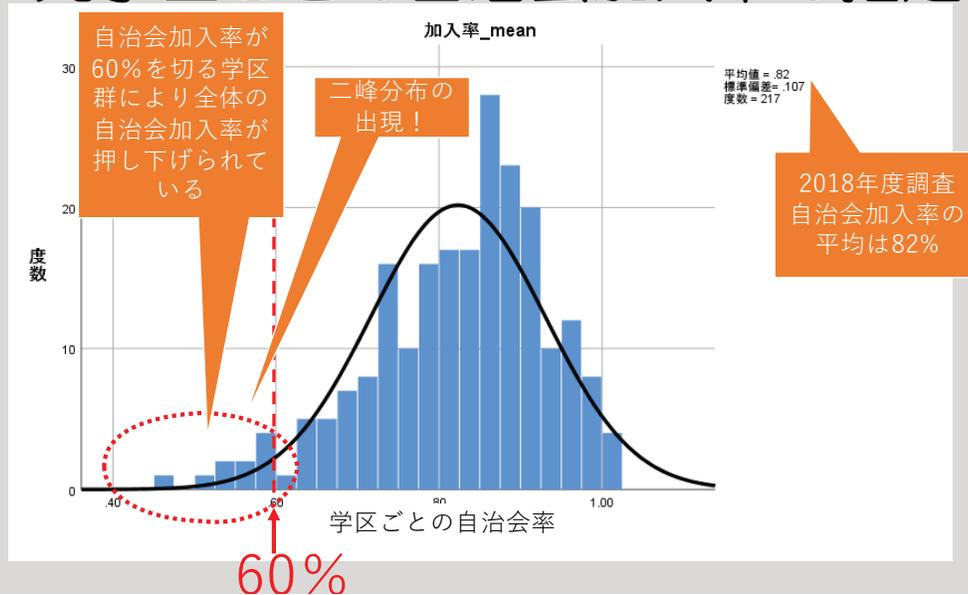
## 2014年度調査 元学区ごとの自治会加入率の推定



## 2016年調査 元学区ごとの自治会加入率の推定



## 2018年調査 元学区ごとの自治会加入率の推定



## ソーシャルキャピタル(SC)を従属変数、促進5要因を独立変数とした3時点パネルデータ分析

VARIABLES	(1) sc
various	0.0755 (0.0689)
event	0.429*** (0.0948)
governance	1.053*** (0.141)
attachment	-0.0573 (0.0939)
greeting	0.523*** (0.0988)
Constant	6.391*** (1.077)
Observations	640
Number of id	220

Standard errors in parentheses  
\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

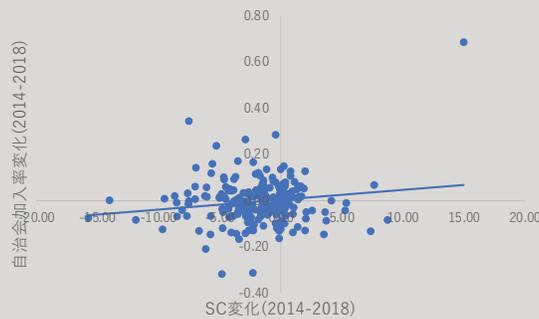
- 2014年度から2018年度にかけてイベントの活用、組織の自律力確保、あいさつの励行のそれぞれの指標を上昇させた地域は、ソーシャルキャピタルが上昇していた。

## 自治会加入率を従属変数とした3時点パネルデータ分析

従属変数 VARIABLES	加入率		
	ブーリング kanyu_per	固定 kanyu_per	変量 kanyu_per
kanyu_per			
incivility	-0.0153*** (0.00191)	-0.00310 (0.00218)	-0.00939*** (0.00183)
sc	0.00189 (0.00174)	0.00388** (0.00178)	0.00342** (0.00159)
various	0.00106 (0.00315)	-0.00403 (0.00298)	-0.00229 (0.00275)
event	-0.00436 (0.00412)	0.00378 (0.00439)	-0.000423 (0.00386)
governance	0.00487 (0.00640)	-0.00833 (0.00635)	-0.00296 (0.00578)
attachment	0.00331 (0.00391)	-0.000898 (0.00503)	0.00337 (0.00393)
greeting	-0.000593 (0.00450)	0.00212 (0.00446)	0.00119 (0.00400)
Constant	0.940*** (0.0581)	0.798*** (0.0583)	0.855*** (0.0526)
Observations	638	638	638
R-squared	0.118	0.026	
Number of id	220	220	220

Standard errors in parentheses  
\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

- 固定効果が選択された
- ソーシャルキャピタル(SC)を2014年度から2016年度、2018年度調査にかけて上昇させた地域では、自治会加入率も増加していた

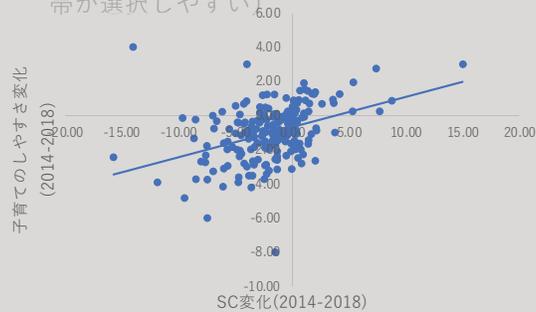


## 子育てのしやすさを従属変数とした 3時点パネルデータ分析

従属変数 VARIABLES	子育てしやすさ		
	プーリング child	固定 child	変量 child
kanyu_per			
incivility	0.0711*** (0.0262)	0.107*** (0.0284)	0.0913*** (0.0247)
sc	0.231*** (0.0237)	0.215*** (0.0233)	0.212*** (0.0211)
various	0.0927** (0.0430)	0.157*** (0.0390)	0.131*** (0.0366)
event	0.252*** (0.0561)	0.124** (0.0573)	0.187*** (0.0516)
governance	-0.170* (0.0877)	0.00601 (0.0837)	-0.0329 (0.0773)
attachment	-0.168*** (0.0529)	-0.0482 (0.0660)	-0.134** (0.0531)
greeting	0.233*** (0.0616)	-0.0482 (0.0586)	0.0841 (0.0535)
Constant	0.944 (0.792)	2.931*** (0.762)	2.088*** (0.700)
Observations	640	640	640
R-squared	0.342	0.392	
Number of id		220	220

Standard errors in parentheses  
\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

- 固定効果が選択された
- ソーシャルキャピタル(SC)、多様な住民参加、イベントの活用を2014年度から2016年度、2018年度にかけて上昇させた地域では、子育てのしやすさも上昇していた。
- 無作法性も正の効果が見られた（無作法性が上昇した地域は地価が安く子育て世帯が選択しやすい）

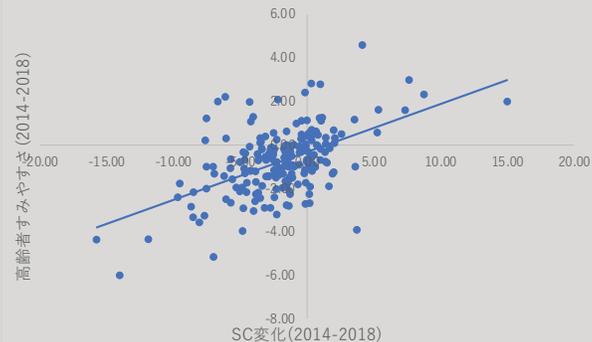


## 高齢者のすみやすさを従属変数とした 3時点パネルデータ分析

従属変数 VARIABLES	高齢者すみやすさ		
	プーリング old	固定 old	変量 old
kanyu_per			
incivility	-0.0467** (0.0194)	-0.0150 (0.0253)	-0.0416** (0.0197)
sc	0.159*** (0.0175)	0.148*** (0.0208)	0.154*** (0.0174)
various	0.000187 (0.0318)	0.0393 (0.0347)	0.00536 (0.0308)
event	0.288*** (0.0415)	0.0411 (0.0511)	0.225*** (0.0418)
governance	0.0459 (0.0648)	0.219*** (0.0746)	0.112* (0.0641)
attachment	-0.0288 (0.0391)	0.0236 (0.0588)	-0.0203 (0.0407)
greeting	0.295*** (0.0455)	0.143*** (0.0522)	0.255*** (0.0445)
Constant	3.308*** (0.586)	5.647*** (0.679)	3.950*** (0.577)
Observations	640	640	640
R-squared	0.535	0.359	
Number of id		220	220

Standard errors in parentheses  
\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

- 固定効果が選択された
- ソーシャルキャピタル(SC)、組織の自律力確保、あいさつの励行を2014年度から2016年度、2018年度調査にかけて上昇させた地域では、高齢者の住みやすさが上昇していた

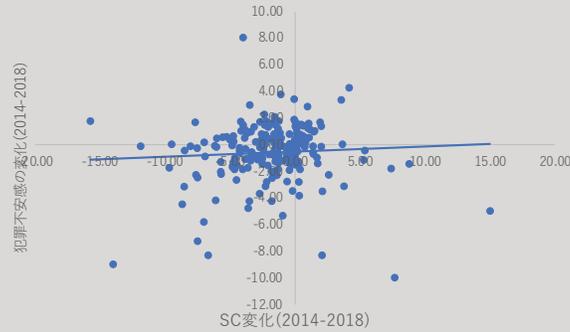


## 犯罪不安感を従属変数とした 3時点パネルデータ分析

従属変数 VARIABLES	犯罪不安感		
	ブーリング fearcrime	固定 fearcrime	変量 fearcrime
kanyu_per			
incivility	0.293*** (0.0257)	0.351*** (0.0364)	0.304*** (0.0263)
sc	0.0679*** (0.0232)	0.0972*** (0.0299)	0.0727*** (0.0233)
various	-0.128*** (0.0422)	-0.121** (0.0499)	-0.129*** (0.0416)
event	-0.0144 (0.0550)	-0.0395 (0.0735)	-0.0126 (0.0560)
governance	0.0173 (0.0860)	-0.0164 (0.107)	0.0140 (0.0863)
attachment	0.0219 (0.0519)	0.139 (0.0846)	0.0316 (0.0541)
greeting	-0.0302 (0.0603)	-0.126* (0.0751)	-0.0401 (0.0599)
Constant	7.445*** (0.777)	6.723*** (0.977)	7.251*** (0.777)
Observations	640	640	640
R-squared	0.189	0.203	
Number of id		220	220

Standard errors in parentheses  
 \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1  
 Hausmanの結果p=.2190

- 変量効果が選択された
- 無作法性を上昇させた地域では、犯罪不安感を上昇させていた
- 多様な住民参加を上昇させた地域では、犯罪不安感が減少していた
- ソーシャルキャピタルが上昇した地域でも犯罪不安感の上昇が見られた

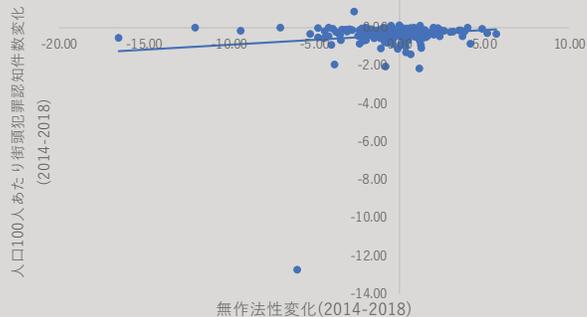


## 街頭犯罪認知件数合算もしくは 人口100人あたり街頭犯罪認知件数を従属変数とした分析

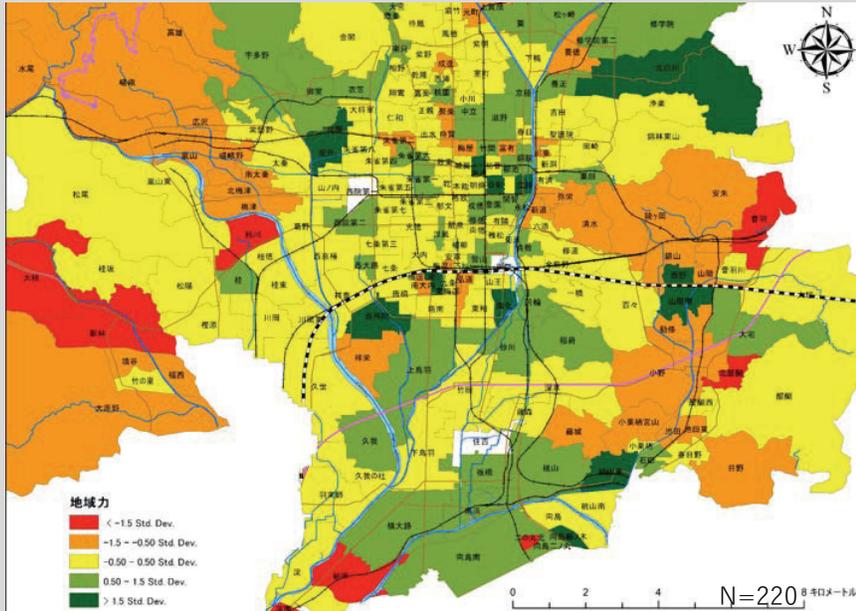
従属変数 VARIABLES	街頭犯罪認知件数per100人		
	ブーリング per100	固定 per100	変量 per100
kanyu_per			
incivility	0.348 (0.515)	0.334 (0.326)	0.292 (0.320)
sc	0.137*** (0.0259)	0.0555*** (0.0144)	0.0687*** (0.0143)
various	-0.0715*** (0.0226)	0.00355 (0.0118)	-0.00515 (0.0118)
event	0.117*** (0.0407)	-0.0271 (0.0197)	-0.0116 (0.0199)
governance	-0.0834 (0.0533)	0.0428 (0.0290)	0.0307 (0.0290)
attachment	0.130 (0.0828)	0.101** (0.0421)	0.101** (0.0422)
greeting	0.0522 (0.0506)	-0.0237 (0.0333)	-0.00813 (0.0323)
Constant	-0.121* (0.0581)	-0.0605** (0.0295)	-0.0734** (0.0295)
Observation	0.284 (0.894)	-0.321 (0.465)	-0.199 (0.475)
Observation	638	638	638
R-squared	0.113	0.071	
Number of ic		220	220

Standard errors in parentheses  
 \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

- 固定効果が選択された
- 2014年度から2018年度にかけて無作法性を上昇させた地域では、人口100人当たりの街頭犯罪認知件数が上昇していた
- 2014年度から2018年度にかけてあいさつの励行を上昇させた地域では、街頭犯罪認知件数を下降させていた
- 2014年度から2018年度にかけて組織の自律力確保が上昇した地域では街頭犯罪の認知件数が上昇していた



# 京都市内の学区別の地域力指標 (2016年度調査)



- 歴史都市  
市内中心部から15km以内に17の世界遺産が集中
- 元学区コミュニティ、番組小学校 (1869年～)、町衆
- 祭礼・無形文化遺産
- 世界文化自由都市 (1978年～)  
藤田裕之(2021)より

2016年度調査 6,580票配布, 2,969名から回答, 回答率45.1%

## 祭礼・無形文化遺産

### 1.多様な住民参加軸

## 世界文化自由都市

### 2.イベント活用軸

大人も子供も行事・イベントに参加する

間をとりもつ仲介者が地域にいる

多様な住民・団体・事業者が参加できる

近所のこどもともかかわりがある

地域主催の行事・イベントが多くある

## 元学区・町衆

### 3.組織の自律力確保

多様な役割を持ったメンバーからなる地域組織が継続する

役所と適度な距離が保てる

共通の敵や問題を知ってもらう

ゆるやかな人のつながりができる

### つながりの力(地域力)

互いに思いやり、信頼、親切、おせっかいをやく

お互いに助け合い、友達になる

## 歴史都市

### 4.地域・テーマの興味・愛着軸

地域の歴史・文化・ウリを発信する

地域の歴史やウリ、共通テーマを発見

地域のこどもが大人にあいさつする工夫をこらす

近所で努めてあいさつや声かけをする

### 5.あいさつ軸

2007年度、2008年度、2010年度神戸市自治会・マンション管理組合調査での因子分析結果